中小企業版SBT認定取得

富士興産 GHG42%削減へ

特金スクラップ問屋の富士興産（本社＝大阪市浪速区、赤嶺和俊社長）はこのほど、温室効果ガスの排出量削減目標を認定する国際機関から中小企業向け「SBT」認定を取得した。2030年度までに温室効果ガス（GHG）排出量を22年度と比べて42%削減を目指す。

「SBT」はパリ協定で決められた温室効果ガス排出量目標を意味し、認定には大企業を主とした通常向けと中小企業向けがある。同社は中小企業向けの認定取得に取り組み、10月27日付で認定の連絡を受け、11月2日からSBTウェブサイトに企業名が掲載された。削減対象範囲はスコープ1（事業者の直接排出）とスコープ2（電力・エネルギー使用に伴う間接排出）。

同社ではカーボンニュートラル実現に向けた具体的な取り組みとして昨年、主力ヤードの大正倉庫（大阪市大正区）の全面改装に伴い、断熱仕様を施した屋根に太陽光パネルを設置。大正倉庫の年間消費電力をほぼ自給できるようにするとともに、自動式の高速開閉シャッターも新設して倉庫内の冷暖房効率を高めた。

また、社用車に温室効果ガス排出ゼロの燃料電池自動車（FCV）を新規導入。フォークリフトのガソリン式から電動式への切り替えも進めている。1年前にはリサイクルを通じた持続可能な社会実現、カーボンニュートラル実現、働き方改革を盛り込んだ「SDGs宣言」を作成し、ホームページ上で公表している。

赤嶺社長は「設定した目標や実績、取り組みの取り組み状況を内外に公表していくことで、脱炭素経営に積極的に取り組んでいく。その次の段階としては社会貢献活動や、サステナビリティーに関する当社の取り組みを一元的に公表するサステナビリティリポートの作成にも挑戦していきたい」と、活動の推進に意欲を見せている。

SBT認定ロゴ

SCIENCE BASED TARGETS
DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION

窒化ガリトランジスタ

住友電工、出力密度2倍に

世界最高

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と住友電気工業は17日、出力密度を従来の2倍に高めた窒化ガリウムトランジスタ（GaN−HEMT）を開発したと発表した。新規結晶技術により、N（窒素）極性でのGaN結晶の高品質化を実現。低抵抗となるn型ドープGaNやハフニウム系のゲート絶縁膜の形成技術も組み合わせた。その結果、2アンペア／ミリメートル超の最大電流と60ボルト超の高耐圧を両立。N極性GaN−HEMTとして世界最高値となる周波数28ギガヘルツでの最大出力密度12・8ワット／ミリメートルを達成した。

同成果を基地局向け増幅器へ実装することで、小型化・高性能化に資すると期待される。今回の研究開発はNEDOの委託事業「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」によるもの。

GaN−HEMTはGa極性を用いるのが一般的だが、N極性を用いることで素子設計の自由度が高まり、さらなる高周波化・高出力化につながると見込まれる。だがN極性のGaN結晶は結晶欠陥が生じることや、高品質なゲート絶縁膜の開発が必要という課題があった。

同事業では結晶欠陥のない高品質なN極性結晶を実現。n型ドープGaN形成技術も開発し、オーミック電極の接触抵抗を低減させた。さらにハフニウム系のゲート絶縁膜の高品質化技術と組み合わせ、GaN−HEMTの電流値増大による出力密度を高めた。

今後は実用化に向け、新規結晶やゲート絶縁膜の信頼性向上、広帯域増幅器の技術開発を進める。

“ワケル技術”で金属リサイクルをサポート
リサイクル処理機メーカー
三立機械工業 株式会社
sanritsu machine industry co.,ltd

テクニカル

月第4週

抜くことができれば、テクニカル面からは一段高が期待できる。

11月第3週のLME100ドルレンジの上限を突破したことでテクニカル面から買いが入った。さらに13週移動する、22年3月2週の1万730ドルを起点とした右肩下がりのトレンドラインや26週移動平均線として意識されている。

銅相場の支援材料は抵抗安になる。ドルの取引される商品価格の割安感につながるため、機械的に銅の買いポジションを増やすフ

道路付属物維持管理ソリュ

古電が巡視点検完了

広島・三原市

古河電気工業は、独自技術による道路付属物維持管理ソリューション「みちてん」シリーズを用いた広島県三原市の道路付属物個別施設計画策定業務を今年7月に完了したと発表した。昨年10月から中電技術コンサルタント（本社＝広島市南区）と共同で進めていた。目視で点検する従来の方法に比べて作業日数を削減できることも確認したという。

三原市内の道路41・5キロを対象に、ドライブレコーダーを搭載した車両を走らせ動画を取得。付属物点検表作成サービス「みちてんスナップ」を用いた動画解析により、点在する道路付属物390基の位置情報を抽出してデジタル台帳を作製した。カーブミラーと道路標識については付属物巡視支援システム「みちてんクルーズ」による巡視点検も実施。簡易劣化判定で要補修となった道路付属物などは、中電技術コンサルタントが付属物点検支援システム「みちてんアシスト」を利用し現地で詳細点検を行った。

みちてんクルーズを用いた巡視点検では、全ての道路付属物を目視で詳細点検する方法に比べて現場作業日数を約5日分、みちてんアシストを用いた点検では約14日分の削減効果が得られたという。

油圧ショベルを導入

キムラメタリックス

導入した油圧ショベル

非鉄スクラップ問屋のキムラメタリックス（本社＝京都府八幡市、高村延芳社長）はこのほど、本社ヤードに油圧ショベルを新たに1台導入した。スクラップ積み下ろし作業の効率化で従業員の負担を軽減し、安定操業体制の強化を図る。投資額は約2000万円。

導入するのは、コベルコ建機製の金属マテリアルハンドリング仕様機「SK135SRD−7」。運転質量は1万6700キログラムでエンジン定格出力は80・7キロワット。防じん、防音、メンテナンス性の高いiNDr（エンジン冷却システム）を採用するほか、左右と後方の機械周囲約270度を鳥瞰的に確認できるイーグルアイビューを備える。

垂直式エレベータキャブを標準搭載し、キャブ昇降量は1600ミリメートル。高い視点から作業現場を把握でき、スクラップのハンドリング時に安定的な操作を可能とする。「従業員の要望を受け導入した。今後も現場の声を聞

作業用手袋を発売

オーミヤ、高フィット感

給排水機材・農機具メーカーのオーミヤ（本社＝大阪府東大阪市、道野弘樹社長）はこのほど、同社のワーキングサプライブランド「Plusone（プラスワン）」から、作業用手袋「ユビフィット」の販売を開始したと発表

熱海で研修旅行を開催

軽金属同友会

藤原会長

関東のアルミスクラップ専門問屋が集まる軽金属同友会は17−18日、静岡県熱海市で研修旅行を開催し20人強が参加した。冒頭にあ